

第1 事業報告の概要と運営状況

- 1 令和7年度は利用定員を80名に変更した初年度で、平均入所率は82.5%であった。定員を下回る状況に変化はなかったが、前年度の65.7%との比較では改善されている。なお、本年度も0歳児を定員より2名多い8名を受入れ収入の確保を図った結果、前年度は人件費積立金1900万円を取崩すなどしての運営であったが、積立金を取崩すこともなく運営することができた。

4月当初の入園・進級児について60名のうち52名(86.6%)が、友田小学校の学区域である友田町及び長淵1丁目地内に在住であった。(前年度は84.3%。前々年度は80.5%)

また、令和7年度の卒園児15名のうち12名(80.0%。前年度66.6%。前々年度58.3%)が友田小学校へ入学している。

- 2 園児が安全・安心な園生活を送れるようにするため、毎月1回、火災、地震又は水害・土砂災害を想定した避難訓練を実施するとともに、保護者参加による園児の引き取り訓練を、6月17日(火)に実施した。

1月19日(月)には、保育園に不審者が来た場合に備え「不審者対応訓練」を実施し、園児及び職員の安全を確保するための行動要領について青梅警察署防犯係員の指導を受けた。

また、10月22日(水)に青梅警察署交通総務係員2名の指導により保育園の「のびっこホール」で幼児クラスを対象に「交通安全教室」を行った。DVDのアニメ動画を見ながら車の近くを通る時に気をつけることや、チャイルドシートの必要性などを学んだ後、信号機のある模擬横断歩道セットを順番に渡り、子どもたち全員が安全な渡り方を身につけられるよう指導を受けた。

施設設備の点検については、職員による毎月1回の自主点検のほか、法定の3年に一度の「特定建築物定期調査」を実施した。調査結果は、園舎建物は当分の間は大規模な修繕を要する状況ではないとの判断であった。なお、ホールや保育室の床暖房が機能しない部分が発生したため、設備の修繕を急遽行った。

給食については、西多摩保健所が開催する特定給食施設等栄養管理講習会に担当職員が出席し知識及び調理技術の向上・習得を図るとと

もに、食材の調達から調理、配膳に至るすべての過程において、食中毒や食物アレルギーを起こすことがないよう細心の注意を払った。

なお、食材の調達については、園児の登園状況等を的確に把握し食材の無駄が出ないように発注を行った。

- 3 保育においては、「明るい子」、「元気な子」、「伸びゆく子」を合言葉に、3歳未満児の乳児クラスについては個々の発達に応じた保育を、3歳以上の幼児クラスについては小学校への繋がりを見据え、「遊び」の中から学ぶ保育の実施に努めた。

- (1) 乳児クラスは、子どもの育ちに寄り添い、毎日安心して過ごすことができるよう養護面（食事・排泄・着脱）を担当の保育士が援助し、毎日同じ保育士と過ごすことで、愛着の形成を深め情緒の安定、心身の発達を促し、日々の積み重ねにより生活面での自立を支える保育を行った。

幼児クラスは、戸外で過ごす時間を大切にし、戸外でしか味わうことができない発見、開放感を得られるよう、また、友だちや保育士と遊びを工夫したり発展させたり、自然に体を動かして遊べるように園庭遊びの時間を大切にした。さらに、令和5年度から行っている「子ども会議」を年間を通して実施し、一人ひとりが自分の意見を言うことができる環境を整え、「共同性」や「言葉による伝え合い」の姿を育んだ。

運動会は、毎月の体操教室で練習した鉄棒や跳び箱、縄跳びなどを、発表会では縦割りグループの子どもたちが同じ目標に向かい、友だちと力を合わせ日々積み重ねたものを披露した。

外部講師による指導のうち、令和6年度から縦割りグループで行っている英語教室「ABC ENGLISH」は20回（前年度21回）実施し、「絵画教室」は幼児クラスごと、ぞう組（5歳児）・きりん組（4歳児）うさぎ組（3歳児）で各2回、今年度初めてくじら・ペンぎんの縦割りグループで各1回の計8回（前年度8回）実施した。縦割りグループそれぞれが手形で花を表わして作製した「桜の木」の作品はホールに展示し、卒園式の日会場に花を添える形となった。

- (2) 恵まれた自然環境を生かして、花や野菜、散歩時の自然観察など自然との触れ合いを深める活動を積極的に行った。

また、本年度も、平成30年度から借用している東京恵明学園所

有農地でのジャガイモなどの植付けや収穫、園庭の一部を使用した季節に合わせた野菜の栽培と生育の観察などの自然体験活動と、焼き芋パーティーや季節ごとのクッキング保育などの食育活動を行った。

- (3) 子どもたちが運動に親しみ体力や運動能力が向上するように、毎日の体操や遊戯、冬季（１月～３月）のマラソンなど日常的な活動の中で身体を動かすことを楽しめる遊びを行った。

外部講師による「体操教室」は、２１回実施した。（前年度２３回）

- (4) 今年度から東京都の補助事業「とうきょうすくわくプログラム推進事業」の申請を行い採択されたことから、３つのテーマ「植物」、「水」、「海の生き物」を設定して実施した。

４ 地域に根ざした保育園として行った活動等については、次のとおりである。

- (1) 高齢者と園児との交流活動（年間行事として計画）

ア 地域の高齢者団体「友田白菊会」との交流会を３回実施した。

イ 地域の高齢者施設２か所との交流会をそれぞれ１回実施した。

- (2) 今年度は１１月１３日（木）にシルバー人材センター会員ボランティア１３名（前年度１１名）の方が来られ、園舎の窓拭きと敷地内の除草作業を行っていただいた。

- (3) 卒園予定児による友田小学校見学を、１月２７日（火）に実施した。

- (4) 市内中学生（２年生）の職場体験学習の受入れ

霞台中学校女子３名３日間、第二中学校男女各２名３日間、新町中学校男子１名女子２名３日間。

- (5) 体験ボランティアの受入れ

市内高校２年生女子１名３日間。都立多摩高等学校インターンシップ１年生男女各２名２日間。

- (6) 保育実習生の受入れ

今年度受入れはなかった。

- (7) 「園だより」を法人役員と地域の関係者等に毎月配布し、園における保育の状況をお知らせした。

- (8) 地域の方々に保育園の活動内容を紹介し理解を深めてもらうため、情報紙「のびゆく子」を各自治会掲示板に掲示した。(令和4年11月から開始)

また、子育て家庭の支援として家庭保育中の親子を対象とした、育児講座及び保育体験などの「子育てひろば事業」を実施した。

- 5 保護者との関係においては、毎月発行の「園だより」、「クラスだより」、「食育だより」等を「チャイルドケアウェブ・コネクト」の保護者連絡アプリによるメッセージで配信するとともに、「電子連絡帳」機能により情報を共有し、またホームページ、ポートフォリオ等を通じて、保育の様子や園の運営状況などについて情報発信を行い、保育園について理解いただけるよう努めた。

給食においては、本年度も、給食サンプルと栄養表示を毎日展示し(7月～9月を除く)、「食育だより」とともに給食への理解と食育の向上に努めた。

- 6 職員の資質向上とキャリアアップを図るため職務経験に応じて、青梅市保育園連合会主催の研修会、東京都及び東京都社会福祉協議会等が実施する研修に積極的に参加した。参加した研修については研修内容、成果を職員間で共有するため研修報告会を行った。

また、12月に全職員にアンケートを行い、職員が業務にどのように取り組み何を実践し、どう自己評価しているか確認するとともに、次年度の人事管理及び運営計画に活かすための資料とした。

- 7 自己評価チェック表の活用

本年度は、3年に1度の東京都福祉サービス第三者評価の実施年度ではないため、毎月保育士が保育の実施について自己評価を行い提出するチェック表を活用し、保育士の業務に対する意識及び保育の状況を確認するとともに改善点の把握に努めた。